

経営人のナビゲーター

経営倫理

No. 100

2020年（令和2年）10月25日発行



Business Ethics Research Center

経営倫理

CONTENTS

◎倫理春秋	
新たな経営倫理のあり方を探求する時	上野幹夫 1
◎特別企画	
『経営倫理』100号のあゆみ	田中宏司 2
◎特集：テレワークと経営倫理	
ニューノーマル時代の企業活動とビデオ会議システムの可能性： 経営倫理教育を中心として	高野一彦 5
テレワークと心理的ストレス：産業・組織心理学の視点から	三上聡美 9
コニカミノルタジャパンのテレワークとこれからの働き方	牧野陽一 13
Workstyle Foresight®	藤曲亜樹子 17
ニューノーマルに向けた日立的取り組み	高本真樹 21
◎マイ・オピニオン	
パンデミックと組織革新	岩倉秀雄 25
◎企業倫理・CSRの実例シリーズ	
オカムラグループのサステナビリティ推進とコンプライアンスの取り組み	遊佐希美子 27
◎大学における講義要約シリーズ	
獨協大学経済学部における「社会会計論」の講義	大坪史治 33
◎世界の企業倫理	
ビジネスと人権とジェンダー	植田晃博 37
◎随想	
〓孤独感染症、と〓コロナショック、	山田良治 41
◎BERCの実践研究レポート	
「マネジメント層への啓発・研修研究会」の紹介	桑山三恵子 43
◎JABESの研究活動紹介	
研究法ワークショップ	小方信幸 46
◎自著紹介	
『図解 新会社法のしくみ（第4版）』	浜辺陽一郎 48
『「常識」によってあらたな世界は切り拓けるか：コモン・センスの哲学と思想史』	青木裕子 48

研究法ワークショップ

日本経営倫理学会 副会長 研究法ワークショップ事務局 法政大学大学院政策創造研究科 教授 小方信幸

コロナ禍における 研究法ワークショップの開催

本年8月25日から9月3日までの火曜日と木曜日、4回にわたり、論文を書くための「研究法ワークショップ」を開催しました。研究法ワークショップは論文の書き方を学びたいという方の要望に応える形で開催したものです。また、当ワークショップは日本経営倫理学会（JABES）、経営倫理実践研究センター（BERC）、日本経営倫理士協会（ACBEE）の三位一体活動の一環と位置づけております。

当ワークショップは元々、本年3月に開催を予定しておりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため、苦渋の決断として8月以降に延期を決定しました。ところが、8月になってもコロナ禍は収まらず、当ワークショップの講師である現役大学教員はコロナ禍による学務の混乱のなかにあり、私は8月の開催は難しいと考えました。しかし、研究方法と論文の書き方を学びたいというJABES会員の強い要望と、今回講師を務めてくださった先生方の熱意により、今回の研究法ワークショップを実現することができました。また、オンライン会議技術の進歩が、コロナ禍における研究法ワークショップを可能にしたといえます。

なぜ、BERC 会員企業の方たちに 学術研究を期待するのか

BERC 会員企業の皆さんは、日々の実務経験を通じて様々な疑問や問題意識をもっていると思います。そのような疑問や問題意識は社会的問題で

あり、同時に学術的にも重要な課題である可能性が高いと思います。例えば、脱炭素社会に向けた企業の取り組みなどの環境問題、男女共同参画推進に留まらず外国人やLGBTの人達に対する公正な職場環境の実現というダイバーシティの問題など、皆さんの周りには学術的にも解決すべき問題は山積しています。

しかし、いくら現場での経験と知識があっても、実務経験だけで論文を書くと、その問題は学術的には既に解明されており独創性（新奇性・新規性）がないという残念な結果になります。ところが逆に、自分が研究しようとする領域で先人達がどこまで問題を解明しているかを把握し、未着手で未解決な重要な課題が分かれば、学術的な貢献ができる可能性があるのです。そのためには、先行研究といわれる学術論文を読み込む必要があります。また、論文を書くには正しい研究方法、つまり研究の作法を身に付ける必要があります。

このように書くと、学術論文なんて面倒くさい、辛気臭い、自分には無理などと思われるかもしれませんが、そのような誤解を解くための場が、研究法ワークショップともいえます。作法といえば、茶の湯の世界では非常に大切にされています。厳格に決められた手順に従い、自然な流れのお点前によってお茶は美味しくいただくことができます。席主と正客との間で道具や掛け軸についての文化的で知的な会話が交わされ、わび、さび、幽玄の世界へと導かれるのだと思います。私自身も煎茶道を学んだ身ですので、茶道のお作法の大切さは身にしみて感じています。もっとも、茶道教授への道から外れ、大学教授を目指して53歳で大学院に入学した者としては、茶道を語る資格は



ありません。しかし、修行と作法の大切さは、茶道でも研究でも変わらないと思います。

企業で働く方達が、学術的な見地から自分の仕事を見直すことにより、仕事の社会的な意義や価値を見出すことができ、仕事に対する意欲も高まると思います。今後、BERC 会員企業の皆さんが JABES で研究発表や投稿論文に挑戦されることを期待しております。

研究法ワークショップの振り返り

今回はオンライン開催のため、首都圏以外の遠隔地さらには海外からの参加もありました。受講申込者数は 68 名と、3 月に募集したときの 2 倍以上となりました。今回のワークショップは、企業勤務の方、主に学部卒の方を対象に大学院修士課程で学ぶ研究法の基礎レベルと告知しました。しかし、実際には大学院修士課程の方が 12 名、博士後期課程の方は何と 14 名も受講されました。当初は大学院生、特に博士課程の方には参加をお断りしました。ところが、研究法の授業がない大学院が多いという意外な事実を知り、結局、大学

院生も受け入れました。

その一方で、BERC 会員企業からは 6 名の方達に参加いただき、大変嬉しく思いました。企業で活躍されている方達に参加いただきたいという願いから開催したワークショップですので、BERC 会員企業から参加された方達の感想や要望などを是非伺いたいと思います。

今後の研究法ワークショップ

今後の研究法ワークショップの開催時期や内容は未定ながら、今回は 68 名の方達に参加いただいたことから、研究法ワークショップのニーズは高いと考えます。今回参加の大学院博士後期課程の方達には当ワークショップを卒業していただき、JABES 若手研究者育成研究部会で研究に励んでいただきたいと思います。当ワークショップの今後の運営は、講義担当の先生方との協議で決めたいと思います。しかし、私は、当初の目的である、企業で働きつつ学術研究の志をもつ方々を応援したいと思います。次回は BERC からより多くの方が参加されることを期待しております。

第 1 回研究法ワークショップの講義内容と担当講師

8月25日(火)	第1回「学術研究と論文の全体像」 法政大学大学院政策創造研究科 教授 小方信幸 博士(経営管理)
8月27日(木)	第2回「学術論文のための著作権基礎と引用、研究倫理」 関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科 教授 高野一彦 博士(法学)
9月1日(火)	第3回「定量分析による経営学の論文」 明治大学商学部 教授 山下洋史 博士(工学)・博士(商学)
9月3日(木)	第4回「事例研究による経営学の論文」 埼玉大学大学院人文社会科学部研究科経済系 教授 水村典弘 博士(商学)